



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ⑨

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

第6代藩主 松平頼謙 (在任期間 1775～1795年)



第6代西條藩主 松平頼謙(よしかた)は、紀州藩第7代藩主 **徳川宗将**の6男で、西條藩第5代藩主 **松平頼淳**が紀州藩主として宗家を継いだため、頼謙が代わって頼淳の養子となり西條家を継いだ。聡明かつ誠実な人柄で、和歌などにも親しみ、儒学を熱心に学んだという。

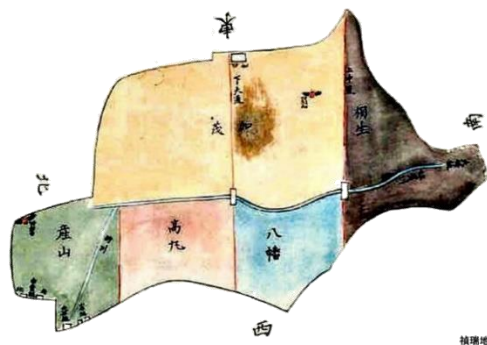
藩政においても、安永7(1778)年、新田開発を建白した **竹内立左衛門**(たけのうちりゆうざえもん)を郡奉行に任用し、工事は5カ年で約**2万両**(銀千二百八貫)の工費、延べ**58万人**の役夫を投じて竣工し、約三百町歩(約300ha)に及ぶ大新田を天明元(1781)年、禎瑞に完成させた。

西条市の中央部を南から北へ流れる加茂川と、西部を流れる中山川の河口に挟まれた禎瑞新田は、『西条の穀倉地帯』と言うべき恵み豊かな地域です。しかし、元々は浅瀬の**海**で、これらの川から流れ込む土砂が長年の間に積もって、広大な干潟を形成していました。この地形に着眼したのが**竹内立左衛門**で、安永7(1778)に鋤始め、安永9(1780)夕留に成功、翌天明元(1781)年に『**禎瑞**』と称えた。

その名の由来は、時の藩主松平頼謙が、干拓地内の八幡から黄金水と呼ばれた清水が湧き出した新田について、「天より嘉瑞(かずい)を降し給うなり」と歓喜したことに始まる。

禎瑞の「禎」は「さいわい」、「瑞」は「めでたいしるし」という意味です。禎瑞=「よろこばしいしるし」
禎瑞入植は天明元(1781)年より始まり、入植状況は加茂に8軒、相生2軒、八幡6軒、高丸9軒であった。天明2年30軒、天明3年17軒、天明6年15軒の他は8軒以下の入植であった。入植開始後20年余で禎瑞の村づくりが完成した。出身地別では、西条領内 **54**次いで讃岐国 **51**・阿波国 **21**・備後 **1**・備中 **1**・安芸 **1**・石見 **1** 他の **142**軒の入植となっている。

この大規模な禎瑞干拓については、三万石の小藩である西條藩がこれだけの大事業を完遂し得た背景に、初代西條藩主**松平頼純**が本家の紀州徳川家から拝受した巨額の御私金をもとに造成した。そのためか禎瑞の地は、版籍奉還後も藩主の私費による干拓地として認められ、藩政時代の禎瑞方役所を引き継いだ子爵松平家の私的機関「御私邸役所」によって管轄され、資料「新居郡禎瑞切図」は、毎年松平家へ納める年貢米の目安とするために作成された地図である。この私有地が、松平家より禎瑞の小作人に38万5000円で売却譲渡されたのは昭和3(1928)年、まさに、明治から大正、昭和へと60年あまりに渡る長い道のりでした。



参考資料：西條市誌(西條市)、西條人物列伝(西條郷土史研究会)、池畔の柳影(愛媛新聞社)、

愛媛県生涯学習センター「えひめの記憶」、西條史談、西条市生活文化誌(西条市)、「西條藩いろいろ」、西條誌。